

## 令和2年度第2回（第68回）CPDプログラム委員会議事録

日時：令和2年12月10日（木）15:00～16:20

場所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）：

高木真人委員長、湯本公庸委員、大和田淳委員、杉浦信男委員、木下泰三委員、  
植山淑治委員、八坂保弘委員、安部田貞行委員、岩田敏委員、塩見誠規委員、  
尾崎章幹事

オブザーバ：須藤 亮会長

配布資料

- 資料 2-1 令和2年度第1回（第67回）CPDプログラム委員会議事録（案）
- 資料 2-2-1 第29回（2020年度第2回）CPD運営委員会議事録
- 資料 2-2-2 第30回（2020年度第3回）CPD運営委員会議事録（案）
- 資料 2-2-3 第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム（案3）
- 資料 2-3 2020年度 第1回 CPD協議会公開シンポジウム開催結果
- 資料 2-4 CPD協議会 2021年度事業計画・2020年度事業報告ドラフト
- 資料 2-5 CPD協議会リンクページの現状

参考資料 日本工学会の歴史と生い立ち

議事

### 1. 前回議事録の確認

- 資料 2-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。
- 本件に関連して、高木委員長から以下の補足説明があった。
  - ▶ 日本の工学会全体の人材育成の会議を、4年に一度の世界会議（WE C）の間に開催するとの提案については、高木委員長から日本工学会の会長・副会長に伝えており、世界エンジニアリングデー記念シンポジウムに含めるか等も合わせて、検討を進めていくこととなっている。

### 2. CPD協議会運営委員会（第29回、第30回）報告

- 資料 2-2-1、2-2-2 により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
- 日本工学会をウィキペディアに掲載する件については、2年前に財務基盤強化委員会の検討で、パンフレットを作ることとともに決まっていたが、今年、日本工学会の広報委員会が発足したこともあって、準備が進捗している。参考資料「日本工学会の歴史と生い立ち」の内容も入れていくことになる。
- 2020年度第1回公開シンポジウムに関連して、第6期科学技術基本計画の議論に「技術者

継続教育」が全く含まれていないとの指摘があり、NTT 篠原会長（総合科学技術会議有識者メンバー）を、電気電子 ECE プログラムの立上げの報告を兼ねて訪問し、対応をご相談する計画である。

- CPD 協議会 2021 年度事業計画・2020 年度事業報告については、年末を目途に原案を作成し、2021 年 1 月 15 日に全体会議と運営委員会を開いて審議する予定である。
- 参考資料「日本工学会の歴史と生い立ち」の内容概略を説明・共有した。日本工学会の課題と対応に関連して、今は「在り方検討委員会」と「財務基盤強化委員会」を統合し「基盤強化委員会」（委員長：小松副会長）として対応を行っている。事業企画委員会は継続、広報委員会の設置、国際委員会の復活も行い活動を強化している。
- 資料 2-2-3 により第 2 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの準備状況について、説明があった。今回は、「多様性と包摂性のある社会のための工学の未来」とのテーマでダイアログを行う。

### 3. 2020 年度 第 1 回 CPD 協議会公開シンポジウム開催結果

- 資料 2-2-1、2-2-2 により、11 月 20 日に開催された題記シンポジウムの内容と開催結果が報告された。
- ウェブ開催のためか、前年より多くの参加あり。意見交換では、参加者からの質問もあり、時間が足りないほどであった。

### 4. CPD 協議会 2021 年度事業計画・2020 年度事業報告について

- 資料 2-4 により、CPD プログラム委員会関連活動部分についてのドラフトの説明があった。
- 2021 年度事業計画では、CPD 協議会（旧 PDE 協議会）発足 20 周年を迎えることもあり、原点に立ち返って見直しをしても良いのではないかと。昨今、学協会の提供するプログラムに加えて、データサイエンスなどで、企業が提供する大型の教育プログラムが盛んになってきている。これは、産業界のニーズとも言え、事例研究を通じてその把握、場合によっては何らかの形での協力を考えてみたい。また、「CPD」よりも「リカレント教育」という用語が多く使われており、事業計画の中にも用語を取り込んで考えていきたい。
- 技術士制度の検討は来年度も継続されると思われる、引き続き協力していく。
- 他団体との連携については、日本工学会の在り方検討委員会（現在は基盤強化委員会）でもその方針が確認されている。例えば、日本工学アカデミーと CPD の活動について議論することなどが考えられる。
- これに関連して以下のコメントがあった。
  - CPD（継続研鑽）とリカレント教育は少し性格が違うと思われる。CPD の世の中での認知度を向上させる方法を考えていただくとありがたい。
  - リカレント教育の事例研究、情報共有については、具体的なやり方、活動方法を考えておく必要があるのではないかと。
  - 事例研究については、公開シンポジウムでの講演を依頼することや、ウェブ上での

公開情報の収集・調査などが考えられる。

- 追加のご意見・コメントなどあれば、12月20日目途に幹事まで連絡頂くこととした。

## 5. その他

### 1) CPD 協議会リンクページの現状

- 資料 2-5 により、CPD 協議会ホームページの現状を報告した。各学協会の Web ページの改編などにより、5 か所のリンクが機能しなくなっている。
- 今年度中に事務局経由で確認を行う予定。

### 2) その他

- 次回については、別途日程調整を行う。

以上